

嬉野温泉

シルキーで滑らかな水

嬉野の温泉は絹のような肌触りが特徴で、pH7～8 の高アルカリ性のお湯です。アルカリ性のお湯は、美肌効果や呼吸器・腎臓病、慢性皮膚病などに効果があると言われています。

名前に秘められた伝説

嬉野の名の由来は、神功皇后が戦いの後、この地を訪れたことに由来しています。神功皇后は、疲れ果てた鶴が近くの川に羽を浸し、元気になって飛び立っていくのを見ていました。神功皇后が部下の兵士に「川で水浴びをしてはどうか」と提案したところ、川底から湧き上がる湯が傷を癒してくれたという。これを見た皇后は、「うれしいの！」と喜びました。その言葉が町名となりました。

豊かな宿場町

1300 年以上の歴史を持つ嬉野温泉ですが、江戸時代には長崎街道の宿場町としても栄えました。当時、日本で唯一の貿易港であった長崎と九州北部の小倉市を結ぶ高速道路は、ヨーロッパ船が長崎に運んできた砂糖の輸送路であったことから「砂糖の道」の愛称で親しまれていました。旅行者はしばしば嬉野に立ち寄り、地元の水の癒しの特性を利用して休憩しました。高速道路に沿って貿易を介して西洋との接触の影響は、町の様々な建物、特にシーボルトの湯ではヨーロッパスタイルの建物を見ることができます。その名は、温泉水の影響を分析するためにこの地域で時間を過ごしたドイツの科学者、フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796-1866）に由来しています。